



日本プラスターのしっくい

ONE
ワン

施工要領書

【改定】2020 年 12 月

※本要領書の内容は、断りなく変更することがありますので、ご了承ください。

Best Walls, Best Life

しっくい と共に

日本プラスター株式会社

■ 重要項目（施工前に必ずお読みください） ■

- ① 本製品はパターン付けを前提とした漆喰です。平滑な金鏝押さえ仕上げはできません。
- ② 塗り厚は必ず 2 mm 以上で仕上げてください。2 mm 以下で仕上げた場合、目地処理部や釘頭などが目立つ可能性があります。
- ③ セッコウボード面にシーラー（プライマー）塗布は行わないでください。場合によっては、目地処理部やビス穴跡のテカリ、透けの原因となります。
- ④ 加水量をしっかりと守ってください。加水が多過ぎると、目地処理部やビス穴跡などにテカリを生じたり、ひび割れ・白華などの不具合の原因となります。
- ⑤ 耐水ボードやハイクリンボードには施工できません。

1. 使用材料

使用材料	荷姿	標準塗り厚	施工面積
日本プラスターのしっくい ONE	20kg 紙袋	2 mm	約 12 m ² /袋※

※パターンや塗り厚、下地の状態によって前後します。

使用材料	荷姿	標準塗り厚	施工面積	用途
マルチベース	20kg 紙袋	約 1.5 mm	約 12 m ² /袋	セッコウボード下地の 目地処理材
ボードプラスターF	20kg 紙袋	約 1 mm	約 16 m ² /袋	セッコウボード下地の 目地処理材

使用材料	荷姿	調合比率 ※3 倍希釈の場合	用途
NP シーラック	18 kg 金属ペール 缶	原液 : 清水 1 (18 kg) : 2 (約 36 ℓ)	セッコウボード露出部 の吸水調整

2. 適用下地

せっこうボード、強化せっこうボード（ボードの厚みは 12.5 mmを推奨）

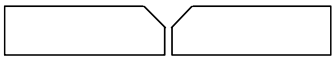
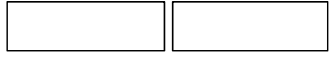
※耐水ボードやハイクリンボードには施工できません、ご注意ください。

※せっこうボード以外の下地(コンクリート、合板など)への施工は、弊社下塗り材(NP-α、マルチベース、ボードプラスターF、弾性マルチフィラーなど)を事前に施工して、その上からの塗り付けは可能です。(ご不明な点は弊社営業までお問い合わせください)

3. せっこうボード下地のつくり方

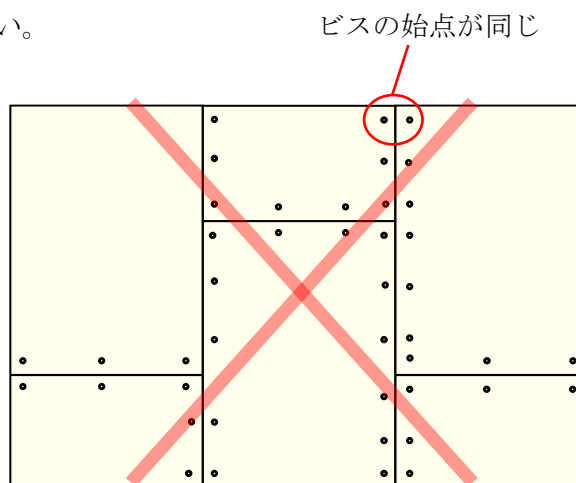
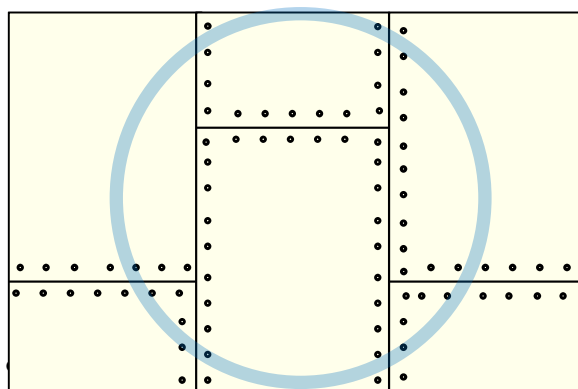
● ボードの選定

- ・ボードの厚みは 12.5 mmを推奨します。9.5 mm厚の場合、ボードの歪みによるひび割れが発生する恐れがあります。

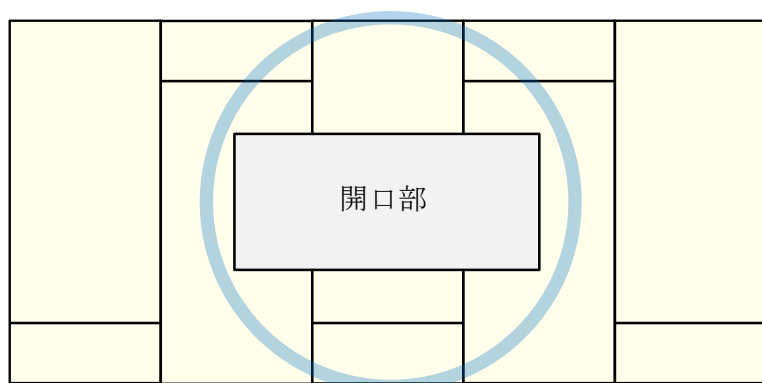
ボードの種類	推奨	形状	備考
テーパエッジボード	◎		ボード同士の密着性がより強い
ベベルエッジボード	○		ボード同士の密着性が強い
スクエアエッジボード	△		ボード同士の密着性が弱い ひび割れが発生しやすい

● ボードの貼り方・ビス留めの間隔

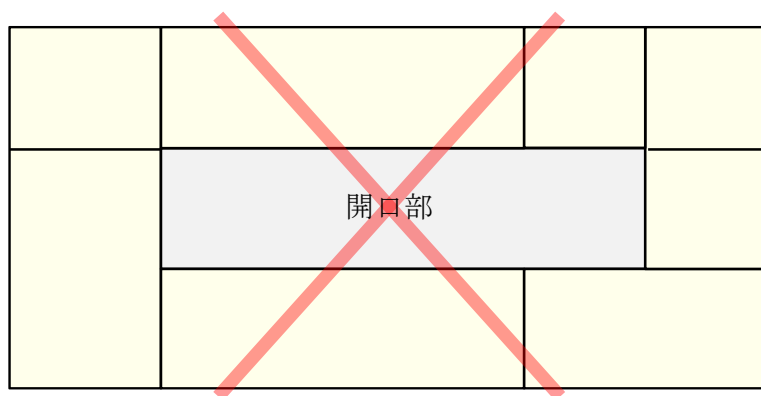
- ・より割れにくい下地にするには、二重貼りを推奨します。
- ・柱、間柱の間隔は 455 mmを基本としてください。
- ・ビスの間隔は 150 mmを基本としてください。
- ・ビスの長さは、ボードの厚みの 2.5～3 倍としてください。
- ・ビスの始点が同じにならないようにしてください。



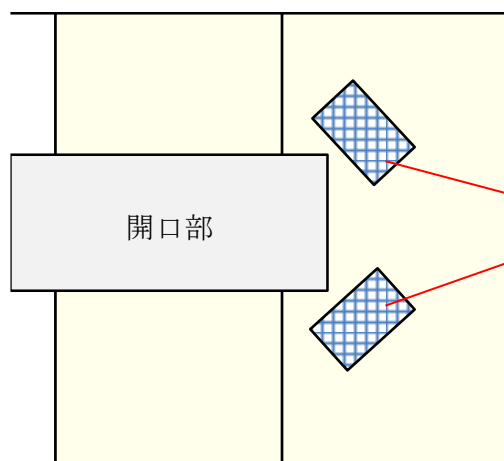
- ひび割れ防止のため、開口部の角にボードのジョイント部を設けないでください。
- 開口部の周りにファイバーテープを貼り補強してください。



ボードのジョイント部を窓やドアの角に設けない。

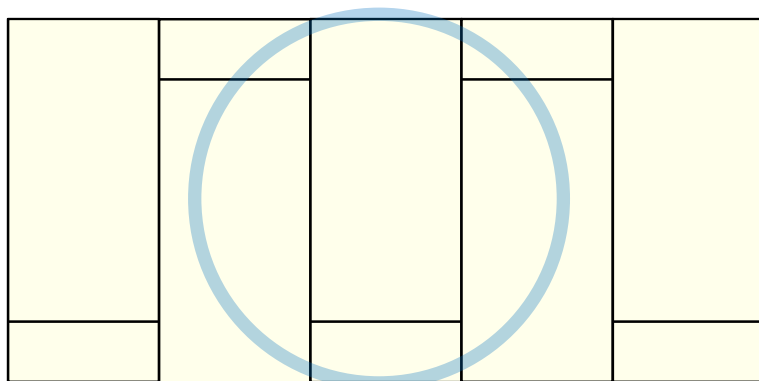


ボードのジョイント部が窓やドアの延長線にある場合、振動等でひび割れが発生しやすい。



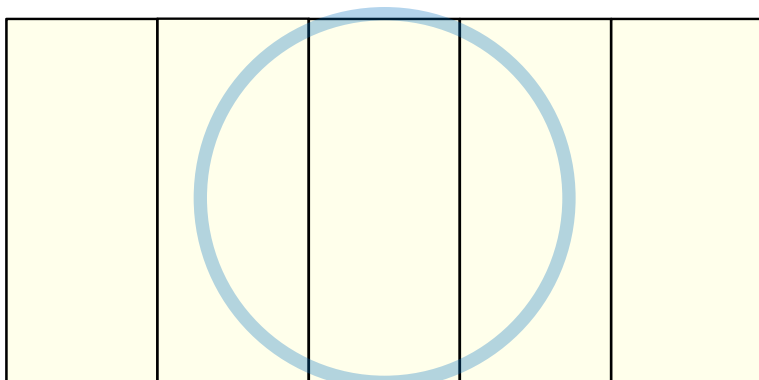
ファイバーテープを貼って
開口部周辺を補強する

● 塗り壁に適したジョイントのつくり方



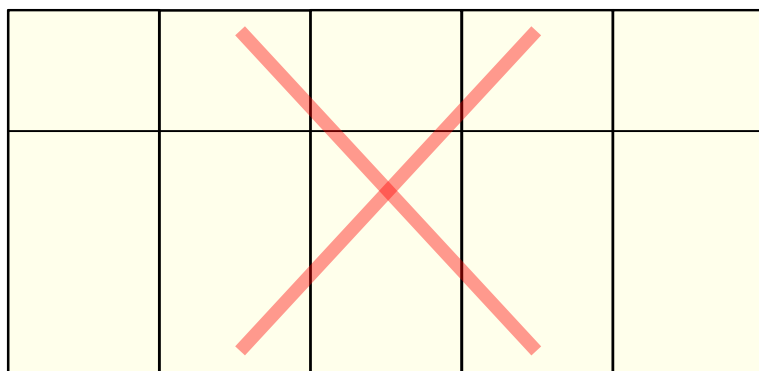
千鳥貼りすることでボードの継ぎ目に横目地が通らずひび割れしにくい。

床面



3×8 ボードを貼り、横目地をなくすことでひび割れを防ぐ。

床面

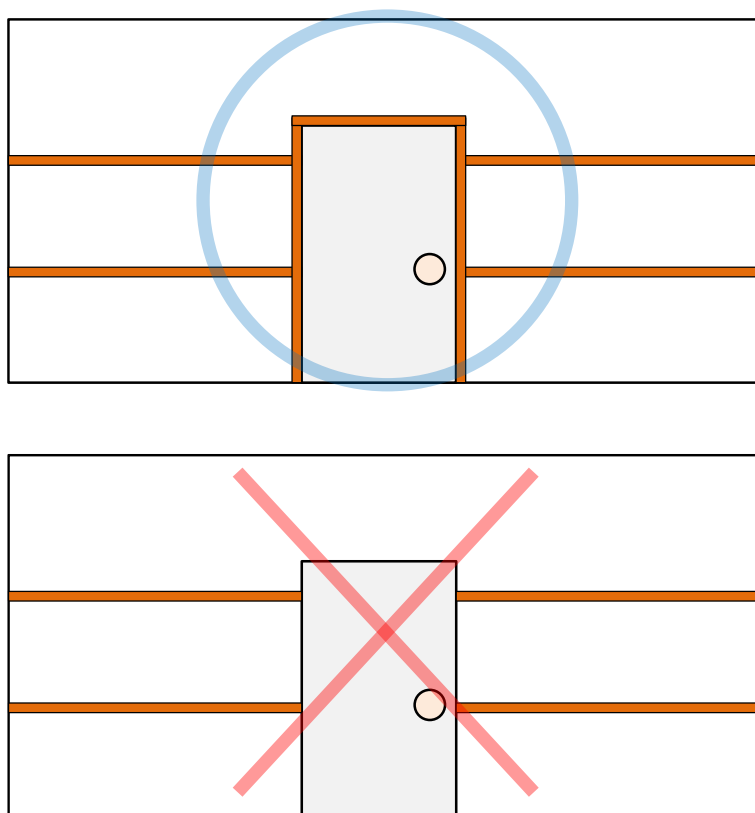


縦、横に目地が入ると動きやすく、ひび割れしやすくなる。

床面

● 受け木を設ける

- ・ 窓やドアの周辺には受け木を設けてください。ボードが固定され、ひび割れを防ぎやすくなります。



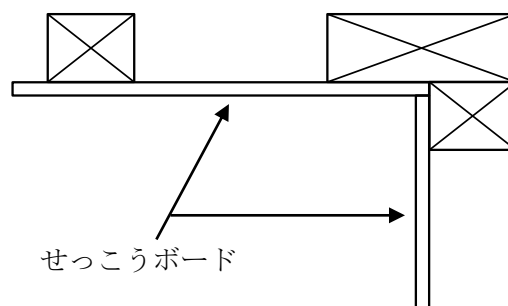
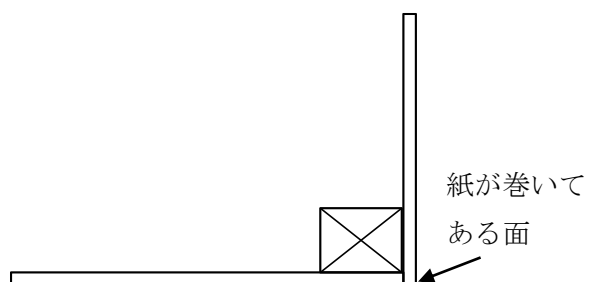
● 出隅・入隅のつくり方

【出隅】

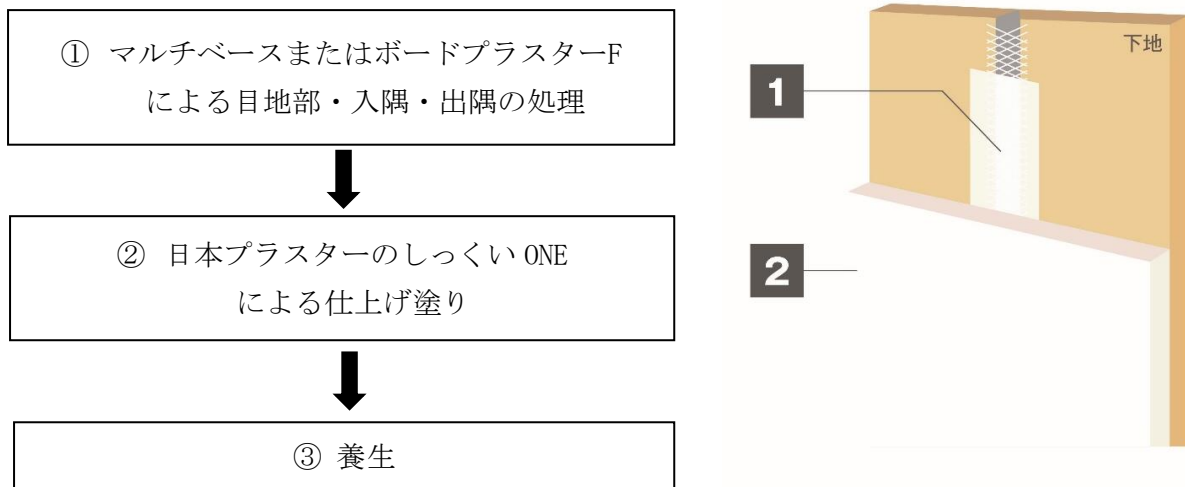
- ・ 出隅はボードの切断面が出ないように紙が巻いてある面を使用してください。
- ・ やむを得ずボードの切断面が露出する場合は、事前に NP シーラック 3 倍液を塗布・乾燥させてください。

【入隅】

- ・ 入隅は木下地で補強してください。



4. 施工方法



施工フローおよび構成図

・事前の確認

せっこうボードの貼りが万全でないと、継ぎ目からひび割れが発生する恐れがあるため、ボードが正しく貼られているか事前に確認してください。また、表面のほこり・汚れ等を除去し、健全な下地としてください。

① マルチベースまたはボードプラスターF による目地部・入隅・出隅の処理

マルチベース 1袋(20kg) に対して 清水 6.5ℓ (固練りの水量) または、
ボードプラスターF 1袋(20kg) に対して 清水 5.0ℓ (固練りの水量) の条件で、
ハンドミキサーで3分以上十分に攪拌してください。

せっこうボードの継ぎ目部にマルチベースまたはボードプラスターF をしっかり埋め込み、ファイバーテープ(寒冷紗テープ)を貼り付けてください(※スクエアエッジボードは埋め込み不要)。さらに、その上にマルチベースまたはボードプラスターF をこすり付けるように塗り付け、ファイバーテープ(寒冷紗テープ)となじませてください。このとき、継ぎ目部が盛り上がらないよう、余分な材料は取り除いてください。せっこうボードのビス止め部分にも、マルチベースまたはボードプラスターF をこすり付けるように塗り付けてください。塗り付け部分が完全に乾いてから次工程に進んでください。

せっこうボードの出隅・入隅部にも、必ずファイバーテープ(寒冷紗テープ)を貼り付け、マルチベースまたはボードプラスターF によって伏せ込んでください(出隅・入隅部に貼るファイバーテープは幅 100 mmのものを推奨)。塗り付け部分が完全に乾いてから次工程に進んでください。

※マルチベース・ボードプラスターF の代わりとして市販の目地処理材(パテ材)も代用可能ですが、必ずファイバーテープ(寒冷紗テープ)を伏せ込んでください。また各製品の標準施工要領を必ず遵守して施工し、目地処理材(パテ材)が完全に乾いてから次工程に進んでください。以上を守らない場合、目地処理跡が目立って仕上がりに支障をきたす場合があります。

② 日本プラスターのしっくい ONE による仕上げ塗り

日本プラスターのしっくい ONE 1袋(20kg) に対して 清水 11ℓ を入れ、ハンドミキサーで3分以上十分に攪拌してください。加水が多過ぎると、ダレ易くなり厚みが付けづらくなり、また乾燥後にテカリが強くなる場合がありますのでご注意ください。

日本プラスターのしっくい ONE で下ごすりをを行った後、追っ掛けでパターンを付けて一発仕上げをしてください(平滑な金鏝押さえ仕上げはできません)。塗り厚は**必ず2mm以上で仕上げてください**。2mm以下で仕上げた場合、目地処理部や釘頭などが目立つ可能性があるのでご注意ください。

③ 養生

施工後は、窓(開口部)を開けて、しっかり通風を心がけてください。併せて扇風機等を回すと乾燥が促進され効果的です。**部屋を閉め切ったままで風の通りがない状態が長く続くと、乾燥が進まずに表面のテカリや目地処理部の透けの原因となります。**

※施工後、強い風を塗膜に直接当てるとひび割れが発生しやすくなるので注意してください。

5. メンテナンス方法

ヘアークラックが発生した場合

【 補修方法 】

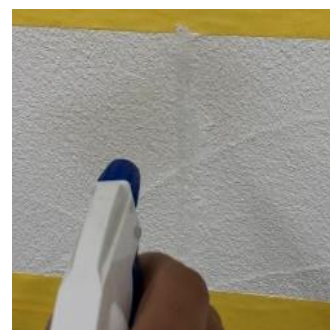
下記の手順に沿って補修をおこなってください。



①筆でひび割れ箇所を水湿し。



②ONE 粉体でひび割れを埋める。



③霧吹きで水湿しをする。



④ドライヤー等で急乾燥させる。



⑤固めのブラシで軽く擦る。



⑥補修完了。

汚れが付着した場合

【 手垢など表面の汚れの場合 】

- ・消しゴムもしくはメラミンスポンジを使用して、表面の汚れを取り除いてください。
(メラミンスポンジは水分を含ませてから汚れ箇所を擦ってください。)



<消しゴム>



<メラミンスポンジ>

- ・上記方法で消えない場合は、布やすり(#180程度)で軽くこすって汚れを取り除いてください。

※ こすった部分の表面は平らになり、周辺より若干白っぽくなります。

【 染み込んだ汚れの場合 】

- ・汚れ部分に水湿しをした後、塩素系漂白剤を直接塗布してください。すぐに清潔な紙ウエスを被せ、15分ほど置いてください。
(泡スプレータイプの漂白剤を使用すると、作業が楽に行えます。)

※ 汚れの度合いに合わせて、繰り返しおこなってください。



- ・上記方法で取り除けない場合は、布やすり(#180程度)で軽くこすって汚れを取り除いてください。

※ こすった部分の表面は平らになり、周辺より若干白っぽくなります。

施 工 上 の 注 意

- 気温が 5℃以下および 35℃以上になる場合は、施工を見合わせてください。
- 施工前に必ず試し塗りを行い、パターンの付け方、仕上がり、および、乾燥具合の確認を行ってください。
- 本製品は自然素材です。塗り方、気象条件、製造ロットなどによっては、若干の色差が出る場合があります。
- 極端にパターンに凹凸がある場合、また気温・湿度・風などの施工環境によっては、塗膜にひび割れが発生する恐れがあるため注意してください。
- 施工道具を洗浄した洗浄水を河川や側溝に破棄しないでください。
- 製品は製造年月日を確認し、製造日から **12ヶ月以上**のものは使用しないでください。



日本プラスター株式会社

本社・工場/〒327-0311 栃木県佐野市多田町188-2
TEL:0283-62-6511(代)FAX:0283-62-8851

東京営業所/〒110-0015 東京都台東区東上野3-38-4
TEL:03-3831-3239(代)FAX:03-3835-2048

西日本営業所/〒604-8305 京都府京都市中京区市之町170
TEL:075-406-5031(代)FAX:075-406-5032